

第2回 橋本市生涯学習推進計画策定委員会
会議録

開催日時	令和7年3月18日(火) 14:00~15:40
開催場所	橋本市教育文化会館4階 第5展示室
出席者 (委員)	・佐藤委員(委員長)・土田委員・滝上委員・岸田委員・今西委員 ・戸島委員(副委員長)・向委員・久保委員・井上委員・岡委員・丸山委員 ・大谷委員・中田委員 【出席委員13名】
欠席者	・玉置委員・北本委員・坂部委員
事務局	教育委員会生涯学習課 中岡課長補佐、井元地域教育係長、海堀スポーツ係長、 山本主査 (株) ジャパンインターナショナル総合研究所：中村容子
次第	1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 議題 (1) 橋本市生涯学習推進計画市民アンケート報告について (2) 第2次生涯学習推進施策体系(案)について (3) その他 4. 閉会
資料	(当日配布資料) 資料1 橋本市生涯学習推進計画アンケート調査報告書 資料2 橋本市生涯学習推進計画施策体系(案)
公開/非公開	公開
傍聴者	0名
その他	なし

【議事要旨】

議 事 の 経 過

発 言 者

発 言 内 容

1. 開会

(事務局) 本策定委員会の開催については、資料1にある「橋本市生涯学習推進計画策定委員会条例」第7条第3項において、「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」とされております。

本日は委員16名のうち、13名のご出席をいただいておりますので、過半数に達していますので、策定委員会は成立していることを報告いたします。

(事務局) 本日の議事については、非公開とする案件を含まない為、公開とさせていただきます。宜しいでしょうか。

(異議なし)

本日の傍聴人については0人です。

2. 委員長挨拶

(委員長) 本日はご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。生涯学習計画の策定というのは、他の計画の策定と少し違ってございまして、この計画策定プロセス自体が委員の人の「学び」ということで、学びの中から策定されるということが通例となっております。

今日、事務局の方でもグループワークを用意しておりますので、その中で気づいたことを記載していただき、計画策定に活かしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局) 前回欠席していた委員の方より挨拶をお願いします。

(向委員) 挨拶。

(事務局) 本委員会の委員長は、条例第7条第2項の規定により、委員長にお願いすることになります。以降の進行は委員長にお願いします。

3. 議題

(1) 橋本市生涯学習推進計画市民アンケート報告について

(委員長) 本日の議題(1) 橋本市生涯学習推進計画市民アンケート報告について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 資料1をもとに抜粋して事務局説明

この報告書をご覧いただきまして、今回ご意見をこの会議で頂戴するにあたり、グループワークにて意見を出し合ってください。事前に3つの

グループに分けており、座席もグループごとになっています。

委員長には、それぞれのグループを回っていただいて、意見を促していただくなど、グループワークを進めていければと思っています。

早速ですが、グループワークにてご意見を出していただけたらと思います。テーマは2つです。

1つは、このアンケート調査を事前に見ていただき、気になった点、こう考える点。もう1つは、アンケート調査から考えられる気づいた点を踏まえて、次期計画においてポイントやキーワードとなるようなことをグループ内でお話して、意見をまとめていただけたらと思います。

時間は約30分を取ろうと考えております。最後に、グループ内で発表していただけたらと思いますので、どういった点、意見があったかという発表役を数人でも、お1人でも結構ですので、グループ内での内容をまとめていただけたらと思います。

(グループワーク開催)

(グループ1) 1グループは、生涯学習及びスポーツの共通項目についてということで話し合いました。

ページ数では5ページから33ページですが、若干そのページよりも前の部分のところのお話がありました。

主なポイントとしては2つあり、1つ目はアンケート調査から分かったこと、気づいたことです。

こちらは青の付箋で書いています。もう1つは、アンケート調査から考えられる時期計画におけるポイントやキーワードということで、ピンク色の付箋に書かせていただきました。

それぞれのアンケートの結果を見て、まずアンケート調査から分かったこと、気づいたことを話し合いながらグループワークをしました。橋本市の生涯学習課において、いろんなイベント、行事がありますが、なかなか参加しない、というような方がいらっしゃるかと思います。それは、きっかけがなかったり、一緒に1回行きたいけど一緒に行ける仲間、友人がいないというようなことが理由としてありました。

それに対しては、こちらのピンク色の付箋に書かせていただいています。サポートできるような受け皿というのをしっかり作ることが必要だとか、いろんなイベントに対しての仲間を増やしていくことが大事だろうということをお話し合いました。

そこで、この行事について多くの人知っているのか、知らないのかというのがポイントになりました。集計を見てもみると、行事を知っているという方が多くいらっしゃいました。

現在、橋本市の方ではLINEを活用している方もいます。情報の入手方法もいっぱいあるんですけども、多くの方が市の広報を見て、それを元にして参加しているという方がいます。

若者は割とSNSを活用しており、市報、SNSそれぞれの広報が大事という

中で、広報の役割は大きいと改めて感じました。

話は戻りますが、行事に対しての認知度ですけれども、橋本マラソンは非常に認知度が高い、もう子供の頃から参加している人たちもおり、7割の方が知っているということでした。

ただ、マラソンについては知られているけれども、参加するということところでハードルがあるかなという意見が出ていました。

その辺りにつきましては、先ほどの受け皿や、参加する方法の工夫をしていくことで、さらに増えるのではないかとも思っています。

逆に認知度が低いと思われる部分もありました。例えば、「すこやか橋本まなびの日」です。こちら、本当に子供から大人まで学べる大変良い機会で、素晴らしい行事だとは思いますが、なかなか知られていない。「すこやか橋本まなびの日」という名前に対して、中身がどんなことをやるのかが十分と伝わらない部分があるのではないことが考えられるため、開催内容の中身が見える化する、というのも大事なことでないかと話し合いました。

その他には、実際参加されない方の中には、仕事が忙しくて参加できない、集まる場所に駐車場が少ない、閉鎖されてしまって入れない、というようなこともあるということでしたので、その辺りを工夫していくことで、より参加される方が増えるかと思えます。

最後に、今後こういう計画を推進するにあたって、やっぱりワクワクする生涯学習があったらいいね、という意見がありました。

学校でもそうですが、ワクワクするのが1番大事なことということで、その辺りをこれから進めていといけたらいいな、ということで話を終わらせていただきました。以上です。

(グループ2) グループ2は、生涯学習の参加状況、生涯学習施設の利用状況、地域活動の参加状況についてです。

たくさん意見を出してみようということで、みんなで意見を書いて、それを説明しながら、みんなに確認し合い、キーワードに分けました。

キーワードは、「つながり」、「公民館」、「情報発信」、「生きがい」という4つ大きく分類しました。普段生活していて、自分の身の回り、会社など自分で行くところではつながりあるかもしれないのですが、自分の地域の活動などで顔見知りになったり、子供を挟んで誰々ちゃんのお父さん、お母さんとかというつながりを切らず、そのまま親同士がつながり、お互い助け合ったり、ストレス発散で一緒に遊びに行ったりということができたらいいのではないかという話も出てきました。

子供の活動も、子供だけでなく大人の交流というところで、子供も大人もどんどん楽しみつながっていくという点で、地域力にもつながっていくのではないか、という話です。

そして、「つながり」につながるのが「公民館」です。公民館に行く人の目的は何かというと、自分のサークルであったりとか、講座に行ったり、公民館に行っている人はわかることもありますが、行ったことがない人は、公民館では何をしているのだろうと思うこともあると思います。また、公民館自体も、もしかしたら知らない方もいるかもしれません。公民館が防災拠点で

あり、備蓄もちゃんとしていますよ、いろんなことが学べますよ、つながりづくりもできますよ、というところで公民館の重要性を考えます。

生涯学習の定義となると難しいのですが、それをいろんな方に知っていただくという機会も必要かと思います。

公民館で何かする行事を元々参画して作っている人、それが苦手だという人は、参加するだけの人がいていいと思います。何か公民館に携わるというところで、公民館と距離が近くなれたら、イメージも変わってくるのではないかと思います。

それに対して、情報発信です。橋本市のホームページがわかりにくいという話が出ました。キーワードを入れても、なかなか自分自身が求めている情報までたどり着かない、どこを押したらいいかわからず、自分が欲しい情報が手に取りにくいので、もっと工夫していく必要があるのではないかと思います。

これだけ公民館がいろんなことをしていて、公民館だけでなく、先ほどの「すこやか橋本まなびの日」や、「公民館祭り」という市の多岐に渡る行事がもったいないと思います。

情報発信は1つのキーポイントで、生涯学習に参加しないところにつながると思います。情報がないから、自分の興味のあるものがわからないから参加しない、というのもあるかもしれないので、キーワードが自分に引っかければ、参加するきっかけになることもあると思います。

そこからきっかけ作りや、必要性がないと感じている方も多かったので、その部分を情報発信で書いていけたらいいのではないかという話になりました。それが「生きがい」につながり、生涯学習の参画は楽しいというところでした。

また、自分の知識や技能を活かしていますか、という質問に対して、活かしてないという方が1.8%いらしたので、そういう方も巻き込んで、どんどん活躍していただければいいのではないかと思います。それが、その自分の人生の豊かさにもつながり、生涯学習の意義につながるのではないかと思います。

(グループ3) グループ3は、スポーツ運動の実施状況、機会や満足度、課題、新しい動きについてでした。アンケートの回答者が60代、70代の方が非常に多かったのもあり、このグループは子どもや家庭のことについて話し合いました。

まず、親と学校の先生との関係性の変化です。これが、10年前と全然変わっており、あんまり怒らなくなったということがあげられます。

スポーツには勝ち負けがあり、負けたことが成長のきっかけになるにも関わらず、負けた時に悔しい思いをして次に励むという機会が少なくなったという見解です。負けた時に、どのような声を周りがかかるかということも大事というのが議論の中に出てきました。例えば、中学校で言うと、やりたい部活動が、自分の通っている学校にあるとか、昔と比べて学校以外のスポーツクラブ出てきたというのがあり、親御さんの送迎が必要となってくるというのがありました。

また、若い親御さんの理解というのが、特に20代半ばから30代の保護者

の視点が今まで変わってきたのではないかというのもありました。

このグループは、しつけは家庭でするものというのが一致しました。学校は勉強は学ぶとこ、しつけというのは家庭、挨拶など、ややスポーツと離れますが、そうしたものも必要というのを再認識したいと思います。

子供も親の環境が変わってきて、学校でもあんまり叱らなくなった。叱ってしまったら、いろんな波紋があるので、そうしたところが子供のスポーツとかにも影響しているのかな、というのがあります。

学校、家庭、子供という形でまとめにくいんですけども、以上です。

(委員長)

私はフリーで皆さんの話を聞かせていただいたり、答えたりしていました。皆さん、話している内容は違うテーマですけども、同じような課題を話されていたように思えました。

私が必要だと思った3点をお話すると、まず情報の出し方、受け取り方、そういうことを考えることが必要かと思いました。

確かに市報は強力ですが、自分で見に行かないといけません。ホームページもそうです。情報を探しにいかないといけないので、意見にありましたように、こっちからプッシュするような形のものが必要で、それはSNSみたいなもので、InstagramやLINEといった媒体で、こちらからプッシュして必要があるかと思いました。そうすると、未来の橋本を担う若い人たちは忙しい間に見るのではないかと考えます。また、市報そのものをプッシュしてもいいかもしれません。

2つ目は、「出会い直し」です。近所の人同士で、顔見知り、すでに出会っているのですが、改めて学校でのお付き合いであったりとか、誰それさんのパパ、誰それさんのママいう付き合いなど、色々あるかもしれないですが、そうじゃない「出会い方」をしないといけないのかと思いました。

人と人が出会い、この人となにかをやりたいなと思うような仕掛け作りが必要なのかという意見がうかがえました。

3つ目は、2つ目にも関連するんですけど、講座やイベントとかの出る前が必要なのではないかと思いました。なんでかという、出会い、出会わなきゃいけないと言ったんですけど、イベントに1人で参加するのはすごく大変です。1人で何かしようというのもなかなか難しく、みんなでなんとなく行ったりする。

それは入り口でいいと思っています。そのイベントに参加する人、行くような人をつくるようなことが必要というのがお話聞いていてありました。

具体的にはどういう場なんだろうと考えてみたんですけど、おしゃべりする場かと思っています。年代で有効な時間も変わると思うんですけど、ここに来れば、なんか最近こうなんだよね、みたいなの話ができる方があったらいいのかなというのがいくつか受けていると思いました。

昔は集会場みたいなのがあったのですが、なくなってきていて、なかなか出にくくなってきて、そういう場があったらいいのかなと思いました。

はい、長くなりましたが、ポイントは以上です。

(事務局)

ありがとうございました。事前にご確認いただいた結果、このグループワークでいろんなお話をし出さうと、さらに整備されたり、課題が見

えてきたり、計画の策定に向けてこういった点が重要じゃないかというところの気づきという部分が、それぞれ出てきたかと思います。

そこも含めて議題の2には、第2次生涯学習推進計画の施策体系案というところでご意見いただけたらと思います。

(2) 第2次生涯学習推進施策体系(案)について

(事務局)

資料2をもとに説明

(委員)

生涯学習の分野というのは、スポーツは入るんですかね。スポーツは、入ると考えていいのか、どっちなんだろうというのが最初の疑問です。

この施策体系を見ていて、それぞれがバラバラに存在するようなイメージを持つので、全体としての広い意味での生涯学習の目指すものというのが柱としたいのではないかなと思いました。

どちらでもあるのが、例えばライフステージに応じたという部分で言うと一緒になる。そこは取り上げていいのではないかなと。

こちら、「人を活かす」というところがあるように、2はボランティアの育成や活用というのを広いうちにしようかなと思うので、それを「人づくり」として大事なので、そこをポイントとして取り上げるでもいいのかなと思いました。

せっかくスポーツと生涯学習を一緒にしているので、この目指す将来像と目標や方針の間にもう1つ、その両方を統合した柱を、その中で個別に分かれていくと整理がしやすいかなと思いました。

(事務局)

生涯学習というのが何かという導入というところの点の話の部分でのことかなと思うんですけども、生涯学習には、スポーツももちろん入ります。もっと広い分野で、学校教育、家庭教育もありますしというところで、いろんな文化活動、社会教育のボランティア、色々な活動を含めて、いわゆる生涯学習として定義されています。

学校は学校の計画というのがあるので、また別で取り扱います。スポーツはもちろん生涯学習に含むんですけども、今までスポーツの計画というのを別で進めてきたというところもあります。今回から、スポーツと生涯学習を生涯学習推進計画という1つの計画にまとめるんですけども、整理としては、スポーツだけ取り上げて、別の項目立てて作っていくというような方向で考えています。

(ジャパン総研)

皆さん、この施策体系だけ見せられてもすぐ分からないな、というのは実際あると思います。計画としては、この施策体系の前に時代の潮流とかいろんなものが入り、生涯学習、スポーツとはなにかという前段があって、この施策体系が入る形になります。

一旦、柱で仮置きをしているような形になりますので、この柱をこうした方がいいのではないかとか、そういったご意見をいただけたら、非常にありがたいと思います。

(委員)

施策体系案については承認したんですけど、10年先にはもうもっと違う状

況が想像される中で、人づくり、環境づくりというもの、人が育ち合う共育、まちづくりという大きなテーマがある中の、こればっと出てきてわからないかなというのがあるので、この前段階を教えて頂けたらと思います。

また、スポーツ分野において、スポーツによる地域づくりというのがあるのであれば、こういうぼんやりした言葉ではなく、もうスポーツ地域展開とか生涯学習、スポーツの発展という言葉を入れて、最後の方向性として入れてもらうのが、地域展開等をいれてもらえると、個人的にはあっさりしていると思っています。それが難しいのであれば、地域におけるスポーツの担い手づくりと環境づくりという言葉を見てもらい、そこを踏まえて変更した案をもらえたらと思います。

(事務局) 今回、施策体系案というところだけをピックアップして提示させていただく形になりましたので、わかりにくい点あったかと思います。また次回の会議で提案させて頂けたらと思います。ご提示させていただいた資料を元にして、計画の対象、本当に生涯学習のところの抑えておくべき点とはということも、再度整理してご提案を出させていただき、ご検討いただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

(委員長) 色々思うことはあり、頭の中に色々あると思うんですが、なかなか言語化するの難しいと思いますので、随時、事務局や私、他の委員さんに言って頂いて集約するというところでよろしいでしょうか。

(異議なし)

(委員) こども基本法というのができて、こども真ん中社会を目指しています。

今、10年後を目指した子供を取り巻く地域であるとか大人がどうしていったら、子供たちが甘えるのではなくて、負けて頑張れるようなことであるような、たくましい子供たち、自立自立というのでしょうか、主体的な子供たちにしていくのに、自分も含めて、自分が主体的にやってこなかったかもしれないので、若い人たちが主体的に動くということの子供たちに見せるということも大事なので、そういう生涯学習社会にならないといけないのではないかと思います。

大きい話をしてしまいますが、そういうのを1つ1つ、何かできるところからやっていけるような計画に盛り込めたらいいと思います。

例えば子どもの権利条約とか、ESGとかSDGs、ほかの地域づくり計画からつながってくるようなものがあるというところを踏まえながら視野に入れたら良いと思います。

子どもの権利条約というのがありますし、大人にも子供にも学習権があるので、それに基づいてやるべきかということをよく考えて策定した方がいいんじゃないかということです。

(委員長) ありがとうございます。色々意見が出てくると思いますので、これから出てきた意見については、事務局にご連絡いただければ今後の作成に役にたつと思いますので、よろしくお願いいたします。

(3) その他

(事務局) 今回見ていただいたのが市民アンケートの結果になっています。

アンケートは2種類とありまして、団体アンケートを取らせていただきました。団体アンケートは、アンケート期間を長く持ちましたので、まだ今お手元にお渡しすることができておりません。まもなくその結果がまとまると聞いております。詳細報告については、今回の会議の議事録とともにお送りさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

今後のスケジュールは、令和7年度も引き続き策定に向けて動いていきます。市民の方にご意見を聞く機会として、今回のアンケート以外でもワークショップの開催も考えております。そこで市民の方に直接意見をいただける機会を設けたいと考えています。

アンケート等を通じて、市民の方からの意見は、今回委員の方からいただいた意見を踏まえて、先ほどお伝えした施策体系の前段のものも含めて、今後計画の策定する中で、次回会議は大体6、7月頃で会議を持てたらと考えております。

そこでいただいた意見をもとに素案を取りまとめたものを1回、またその素案を基にパブリックコメントをいただいて1回の会議を考えておりますので、来年度は計3回会議を出たらと考えております。

いただいた意見を事務局側で整理しまして、何かありましたら随時ご意見いただけたらと思いますので、その点もよろしくお願いいたします。

以上です。

9. 閉会

(副委員長)

皆様、今日はありがとうございました。

グループワークで深掘りできたというか、自分の考えの見直しもあったかなと感じております。

すごく難しい問題と言ってしまうえば身もふたもないのですが、計画改訂の会議をすることは、時代に合わせていくということも難しいと感じております。

終わりの挨拶とは違う雰囲気になりましたが、また、色々次回に向けて、自分自身も勉強したいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今日はありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、これもちまして第2回橋本市生涯学習推進計画策定委員会会議を終了させていただきます。

本日は長時間ありがとうございました。今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。